

国際安全保障研究奨学プログラム

第22期奨学生募集

若手研究者に対して奨学金を支給し、
個別研究指導、国内・海外研修を提供

独立行政法人国際交流基金助成

募集〆切

2024

5.24金

期間

2024年7月～2026年7月までの2年間

募集人数

7名（書類審査 及び 面接により選考）

対象

若手研究者（40歳以下）

詳細は当研究所ウェブサイトをご覧ください。



<https://www.rips.or.jp>



プログラム概要

プログラムの目的

当プログラムは、若手の研究者および実務者に対して奨学金を支給し、個別研究指導及び研究会・研修プログラムを提供することにより、日米が直面しているグローバルな安全保障課題に取り組み、将来、国際安全保障研究をリードする若手の研究者や実務者の人材育成を目的としています。プログラムのディレクターに、神谷万丈氏(防衛大学校 教授/平和・安全保障研究所研究委員/プログラム第6期生)、細谷雄一氏(慶應義塾大学 教授/平和・安全保障研究所研究委員/プログラム第9期生)、楠綾子氏(国際日本文化研究センター 教授/プログラム第12期生)があたり、安全保障、外交、内政、経済など様々な面から国際安全保障や日米関係、関連領域の分析と政策研究を指導します。

応募資格

- (1) 日本国籍を有すること。
- (2) 関連する分野において修士またはそれと同等以上の学歴を有すること。ただし実務家の場合には、実務経験から判断して応募を認めることがある。
- (3) プログラム開始時点(2024年7月)において40歳以下であること。
- (4) 国際安全保障、国際政治、日米関係、日本の防衛、外交史、地域研究、あるいは国際機構などの研究をしているか、あるいは今後そうしたテーマについて研究する計画をもっていること。または、官公庁やジャーナリズムなどにおいて国際安全保障、外交、日米関係、あるいは日本の防衛に関する実務、分析、あるいは報道に従事しているか、将来、こうした方面の実務にたずさわる予定であること。
- (5) 政策志向の研究に関心があり、本プログラム参加中に政策志向研究を実施する意旨があること。応募者には、(4)に示された本プログラムの趣旨を理解して、自らの研究関心/実務上の関心と組み合わせた研究テーマを設定することが求められる。
- (6) 英語で講義を受け討論に参加できること。(本プログラムでは、一部の講義が外国人の研究者によって行われ、米国や韓国への研修も予定されている。)
- (7) オリエンテーション、夏期集中セミナー、定例研究会、研修の全てに原則として対面で参加可能であり、かつ個別研究をプログラム修了まで確実に完了できること。応募者には、本プログラムに参加を認められた場合、プログラム実施期間中はやむを得ざる事情が生じた場合を除き、プログラムへの参加にコミットすることが求められる。

定例研究会(毎月)

有識者・実務者を講師とするセミナーを実施しています。
第21期では下記のようなテーマでセミナーを実施しました。

第21期の実施テーマ

「現代国際政治におけるパワー」、「外交史・国際関係理論研究のなかの 定性的(事例研究)手法」、「国際秩序とは何か」、「習近平政権の直面する課題と台湾情勢」、「ロシアによるウクライナ侵攻が国際安全保障に与えたインパクト」など

個別研究指導

プログラムの主要目的のひとつは、外交・安全保障分野における奨学生各自の専門分野に関する学術論文の執筆を支援することです。執筆予定の論文に対して、ディレクターによる理論的な枠組や適切な事例検証の方法に関する指導を通じて、説明的かつ実証性の高い論文を執筆し、また、学術誌へ掲載するための指導を行います。

国内・海外研修

国内および海外での研修を実施しています。過去に実施した研修での訪問先機関は以下の通りです。

韓国研修

シンクタンク アサン研究所
韓国国防研究院(KIDA)
韓国極東問題研究所(IFES)
大学 ソウル大学
延世大学
梨花女子大学
官公庁 在大韓民国日本国大使館

ワシントンD.C.研修

シンクタンク ブルッキングス研究所
戦略国際問題研究所(CSIS)
外交問題評議会(CFR)
マンフィールド財団
ハドソン研究所
フーパー研究所
大学 ジョーンズ・ホプキンス大学
ジョージ・ワシントン大学
官公庁 在アメリカ合衆国日本国大使館

プログラムの主な修了生

平和・安全保障研究所は、1984年より米国フォード財団(Ford Foundation)の協力により、「安全保障研究奨学プログラム」を開始し、1992年からは独立行政法人国際交流基金の助成を受けて、日本における安全保障研究の向上と若手研究者の育成に取り組んできました(2010年以降はプログラム名を「日米パートナーシップ・プログラム」に改称して実施)。プログラム修了生は、1984年から2022年までに約160名(通算第20期)に上り、その多くが研究や実務の第一線で活躍しています。(今期からは名称を「国際安全保障研究奨学プログラム」として実施します)

主な修了生

第2期: 浅田正彦(同志社大学教授)
第5期: 中西寛(京都大学大学院教授)
第11期: 森聡(慶應義塾大教授)

第4期: 村田晃嗣(同志社大学教授)
第6期: 岩間陽子(政策研究大学院大学教授)
第13期: 佐橋亮(東京大学准教授) 東野篤子(筑波大学教授)など

